

阿蘇のかけはし 第4号

れいわ ねん がつはっこう あそしとくべつしえんれんけいきょうぎかい
令和3年2月発行 阿蘇市特別支援連携協議会

「阿蘇のかけはし」第4号では、①阿蘇市特別支援連携協議会の主な活動内容
②巡回相談③研修会報告④ちょっと知りたい特別支援教育「通級指導教室」の4つの
記事を掲載します。

なお、第1号～第3号の啓発紙も、阿蘇市内の小中学校のホームページで見ることができます。こちらも是非、御覧ください。

1 「阿蘇市特別支援連携協議会」は何をしているの？

目 的	<p>発達障がいを含む全ての障がいを持つ幼児・児童・生徒の一人一人の教育的 ニーズに応じた適切な指導や支援を行うため、</p> <p>①教育・医療・保健・福祉・労働などの関係機関と連携し、地域における教育支援 体制を作り上げる。</p> <p>②特別支援教育に関わる教職員などの専門性の向上と関係者への理解・啓発を図る。</p>
主 な 活 動 内 容	<p>(1) ブロック会議(年2回)の開催 中学校校区分別に幼稚園・保育園・小学校・中学校の担当者が集まるブロック会議 を行い、幼保小中の連携を進めています。小国支援学校特別支援コーディネーター・ 療育相談員・保健師にも会議に参加いただき、アドバイスをいただきながら、情報 交換・支援方法の共有をすることで円滑な支援の連続を目指しています。</p> <p>(2) 巡回相談(随時)の実施…2ページをご覧ください。</p> <p>(3) 研修会(年1回)の開催 学校で特別支援に携わる教職員等を対象として研修会を開催しています。この 研修を通して特別支援教育に関わる専門性の向上を図っています。</p> <p>今年度の研修内容については、3ページを御覧ください。</p> <p>(4) 啓発紙(年1回)の作成 啓発紙『阿蘇のかけはし』(本紙)の作成・発行を通して、関係者を含めた市民 全体への障がい及び特別支援教育に対する理解・啓発を進める活動を行っています。</p>

阿蘇市特別支援連携協議会の組織図や関係機関の連絡先については、啓発紙の
第1号に掲載しています。参照ください。

2 巡回相談ってどんなもの？

巡回相談とは、特別支援教育に見識のある巡回相談員が、幼稚園や保育園、小学校、中学校、高校の依頼を受けて、特別支援教育に関わる研修を実施したり、児童生徒が必要とする支援内容や方法について助言したりする取組です。就学や進路についての相談・情報提供、子どもの得意・不得意を把握して支援や指導へ活かすための授業参観・発達検査、特別支援教育や発達障がい、子どもとの関わりについての研修などが行えます。

※その他にも、園及び学校の要請に応じて、様々な支援がいただけます。

- ・児童生徒や学校・園のニーズに応じた指導及び助言
- ・校（園）内における支援体制づくりの助言
- ・専門機関と園及び学校の間をつなぐ



今年度、阿蘇市全体で18回の巡回相談の実施がありました。その中から、内牧小学校で行われた特別支援教育担当者や保護者向けの取組を以下に紹介します。

【具体的な取組紹介】

- (1) 特別支援教育担当者を対象とした研修(8月実施)
- 県立小国支援学校の巡回相談員からは、以下の視点で具体的な事例を紹介していただきながら、講話をいただきました。



特別支援教育は、自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うことが大切です。

また、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍するすべての学校において実施されるものです。

- (2) 保護者を対象とした研修(10月実施)
- 今回の研修は、高等学校卒業後の進路や福祉サービスについて、講話をいただきました。特に、「企業で求められる力」の説明が印象に残りました。



- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・元気に挨拶や返事ができる力 ・適切な人に相談できる力 ・指示や指導に素直に従う力 ・毎日仕事ができる力(健康管理力) ・整理整頓する力 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えることができる ・困ったときに聞く(尋ねる) ・自分も周りも気持ちよく過ごす ・規則正しい生活を送る ・仕事の効率をはかる |
|--|---|

社会的自立をめざすため
今からできること

参加いただいた保護者から、「子どもの将来を想像することができ、安心した」や「子どもが成長していく過程でいろいろな選択肢があることを知ることができた」、「先のことを考える良い機会となった」という感想を頂きました。

3 研修会報告

今年度の研修は、コロナ禍の中の開催ということで、阿蘇市全小中学校8校から、特別支援教育コーディネーター1名ずつに参加者を限定し、感染対策を講じた上での実施となりました。



阿蘇温泉病院で作業療法士として御勤務されている西岡玖美氏を講師にお迎えして「視知覚の発達が未熟な子どもへの支援」の演題で講話をしていただきました。

学習の約80%が視覚情報から得られると言われています。子ども達の中には、文字の読み書きや視写が苦手、手先の不器用さがあるなど、様々な難しさを感じている場合があります。その背景には、視知覚がうまく働いていない可能性があるそうです。

視力と視知覚（見る力）の違い

視力	目で物体を識別できる力
視知覚	その物体が何なのかを認知し、以前の経験と結び付けて捉えることができる力

視知覚の主な能力

図地判別	多くの視覚情報の中から必要な情報を選択する力
視覚の恒常性	見た目が変わっても、ものの特性は変化しないことを知覚する力
空間認知	自分の位置を基準に上下左右、斜めなどの位置関係が分かる力
目と手の協応	目と手のチームワークを働かせることができる力

視知覚に問題があると、黒板の文字の視写、学習用具の使い方、漢字の読み書き等、学習面の困難さに加え、手先の不器用さ、探しものが見つけられない、集中力が持続しにくい等、生活面での困難さにもつながるとのことでした。

研修会では、具体的な指導・支援の方法や教材について紹介していただきました。見る力を育てるためには、目で物体を追ったりする眼球運動だけでなく、空間認知の発達を促すために、ペアで行うボール運動等に組み込んでいくことが大切とのことでした。他にも、迷路やぬり絵、オセロ等、遊びを通して手元を見ながら、手先を動かす経験を積み重ねることが大切とのことでした。



これからに生かせる有意義な研修会となりました。今後も子どもの実態を適切に捉え、工夫を重ねながら、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援の充実を、阿蘇市全体で図っていきます。



4 ちゃんと知りたい特別支援教育

「通級指導教室ってどんなところ？」

通級指導教室は、学習上または生活上の困難を改善・克服することを目的に指導を行う教室です。阿蘇市では、一の宮小学校内に2教室（ことばの教室・まなびの教室）、一の宮中学校に1教室（まなびの教室）が、設置されています。今回は、一の宮小学校内にある2つの通級教室について、御紹介します。

 ことばの通級指導教室	まなびの通級指導教室 
☆ 下記のような子どもたちのための教室です。	
 <p>発音が正しくできない。</p> <p>年齢に比べて、幼い話し方をする。</p> <p>話し言葉がつかえたり、つまったり、言葉を繰り返したりする。</p> <p>話の内容を正しくとらえることが難しい。また的確な会話ができにくい。</p>	 <p>計算に時間がかかったり、平仮名や漢字の書き順を覚えたりするのが難しい。</p> <p>友だちとのコミュニケーションが上手いかな、友だちとうまく遊べない。</p> <p>待つのが苦手。早合点や飛躍した考えがある。聞き違い・聞き漏らしがある。</p> <p>身体運動や細かい作業が苦手。手先が不器用で時間がかかる。</p>
☆ このような形で指導しています。	
<ol style="list-style-type: none"> ① 通級制で、学校の学習になるべく差し支えないように指導日を考えています。 ② 指導は、週に1～2回（45分～90分）程度です。 ③ 通級のための時間は、出席扱いになります。 ④ 校外からの通級児童に関しては、保護者の送迎を原則とします。 ⑤ 相談や指導を受けるための費用は、必要ありません。 	
☆ このような内容で指導をしています。	
<p>☆ ことばを正しく聞き分ける力をつけ、唇や舌など発音に関わる器官の働きを高め、正しい発音ができるように改善を図ります。</p> <p>☆ 話すことへの抵抗感を軽減し、楽に話せるようにします。</p> <p>☆ 自分の考えをまとめてことばで表現する力を伸ばします。</p> <p>☆ その他、遊び等を通して、子どもの発達や興味に合わせた方法で指導を行います。</p> 	<p>☆ 子どもの得意なことや興味、関心をいかして学習に取り組めるように指導をします。</p> <p>☆ 「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」などのつまづきに対して、子どもの実態に配慮した指導を行います。</p> <p>☆ 取り組む学習の目標を決めて、スモール・ステップで指導を行います。</p> <p>☆ その他、遊び等を通して、子どもの発達や興味に合わせた方法で指導を行います。</p>